検　索
自衛隊宮崎地方協力本部
http://www.mod.go.jp/pco/miyazaki/
facebook twitter

Miyazaki
Provincial Cooperation Office

宮崎
宮崎地本だより

発刊元：自衛隊宮崎地方協力本部
編　集：募集課広報班
お問い合わせ
宮崎県宮崎市東大淀２丁目１-３９
TEL&FAX　0985-53-2643

【令和元年度自衛官採用試験】

自衛隊宮崎地方協力本部は、九月二十一日から第二回一般曹候補生第一次試験（県内七個会場）、自衛官候補生採用試験（同六個会場）をはじめ、逐次県内の会場において、令和元年度の本格的な自衛官採用試験を開始しました。

今年度も、各学校の進路指導の先生方との募集連絡会議、県募集相談員の方々との連絡会議を通じて自衛隊の募集活動を説明してきましたが、厳しい募集環境が続き、志願者数が減少している状況にあります。

七、八月の募集期間中、広報員は担当地域内を早朝から夜遅くまで進路に迷う若者や保護者に自衛隊を紹介する等の努力もさることながら、貴重な情報をお寄せ頂いた募集相談員の皆様、学校の進路指導の先生、並びに協力諸団体の皆様のご協力を賜り、紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

宮崎地方協力本部は、体験搭乗、艦艇広報等のイベントの実施により自衛隊の真の姿を理解してもらい、引き続きあらゆる手段を通じて自衛隊で働く魅力を発信して、優秀な若者が自衛隊に興味を持ち、志願そして入隊していただくように地域と密着した募集に精進努力していく所存です。

令和元年度
各種採用試験始まる！

試験会場：延岡市福祉センター

【任期制退職予定隊員等のための合同企業説明会】

令和元年七月八日（月）、十月三日（木）宮崎市のＪＡ・ＡＺＭホールにおいて、一般財団法人自衛隊援護協会福岡支部との共催による令和元年度任期制隊員合同企業説明会を実施した。

宮崎県との退職自衛官等との就職支援協定締結後初めての説明会であり、県の就職相談窓口も開設し、多くの企業から申込があったため、二回に分けて実施することとなり、県内に事業所がある企業七十社と県内に就職を希望する陸上及び航空の任期制自衛官等三十名の参加を得た。当初、各企業の社長や人事担当者による約三分間の「企業アピール」により、会社の概要、業務の内容、将来の展望などを説明して頂いた。その後、ホール内に設置した企業ブースごとの説明にあっては、隊員が希望する企業を巡回し、企業理念や職場の雰囲気、福利厚生、入社後のスキルアップなど詳しい説明や質疑を交えて確認することが出来た。また、参加企業からの隊員の逆指名をエントリーして頂き、多くの隊員と接触して頂く機会を設定した。参加した隊員からは、「色々な企業から求人票等のみでなく職場情報などの説明を受け、今後の就職活動に大変役に立った。」などの意見が多かった。

人口流出などの人材不足の問題を抱えている県内企業と部隊の連携強化を図り、隊員が希望する企業に就職できる様に支援するとともに、自衛官候補生の認識と理解を深めてもらい、地本の任務達成に繋げていきたい。

説明を受ける隊員

会場：ＪＡＡＺＭホール

各企業の紹介

各企業の説明

たまゆら

まずは、十月十二日に静岡県に上陸した台風１５号、１９号及び２１号による豪雨により、関東、東海、甲信及び東北地方に甚大な被害を受け被災された皆様及びそのご家族の皆様に対して、心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆様の一日も早い復旧をお祈り申し上げたいと思います。

近年、台風は地球温暖化の影響からか大型化して、日本列島を縦断したり、近傍をかすめる進路をとる頻度が高まり、また、低気圧から伸びる前線の影響を受けて線状降水帯を形成、一部地域に集中して雨が降り続くなど、これまでの気象現象の予測を超えるような災害が発生しており、日頃の防災に関する知識と備えに加え、いざという時の心構えや被災しないための自身の行動力が問われているのではないかと感じます。災害は、いつどのような形で自分の身に降りかかってくるかは分かりませんが、防災に関する国や自治体等の対策もこれまで以上の検討が必要であるとともに、災害対処に関する自分自身の感度も、より高めておく必要があるかもしれませんね。

さて、私が本部長に着任して一年が経ちました。初めて携わる募集、再就職援護、予備自衛官等や広報の業務に、戸惑うことも多くありましたが、今は、課された任務を着実に遂行するとともに、今後、将来を見据えた宮崎の地方協力本部の在るべき姿、将来構想や軸となる考えをしっかりまとめようと考えています。ややもすれば、毎年の募集や援護等の目標ばかりに目が奪われ、足元の地盤が疎かになりがちになります。その部分をしっかり固めるのも私の仕事と考え、次の一年に取り組んで行こうと考えています。九月から十月、そして十一月にかけては、募集業務のうちの大事な試験の最盛期となります。毎週、地本の部員は、整斉と準備をして厳正な試験業務に臨んでいます。そして、自衛隊に興味を持ち、試験に臨んでいる皆さんを前に、心の中では「皆、頑張って！そして、合格してくれ！」と大きな声で祈っています。

新元号「令和」での試験を突破し、令和二年に沢山の宮崎県出身自衛官が誕生することを期待して、地本の部員共々、目の前の業務に邁進していきたいと思います。

令和元年十一月吉日　本部長　荒井一佐

生駒高原のコスモス

イベント

観艦式付帯行事　広報

十月五日～六日の間、海上自衛隊横須賀基地において行われた令和元年度自衛隊記念日観艦式付帯広報行事に、宮崎地本公式キャラクターの日向（ひなた）君・渚（なぎさ）ちゃん・隼人（はやと）君の三人を派遣しました。

今回海上自衛隊での初の試みで、「全国ゆるキャラ大集合・観閲行進」と銘打って、全国の部隊や地本から自慢のキャラクターが一同に会し、来場者の前で整斉とした観閲行進を披露し、自衛隊への親近感を醸成する行事を大いに盛り上げました。

日向君は陸上自衛官の力強さを、渚ちゃんは女性自衛官の大和撫子ぶりを、隼人君は航空自衛官のスマートさを全身でアピールし、高い人気を得ることができました。また、艦艇の一般公開では、護衛艦「てるづき」や「こんごう」、潜水艦「こくりゅう」等、数多くの大きな艦艇が披露され、来場者は「こんなに沢山の船を見学できるなんて嬉しい」、「やはり艦艇はすごくカッコいい」と興奮を隠せない様子であった。その他にも、自衛隊の職種を紹介するブース、海上自衛隊の哨戒ヘリコプターの地上展示や横須賀港内の体験クルーズなど盛り沢山のイベントがあり、老若男女問わず一日中来場者を飽きさせない、楽しいひと時を過ごしていました。

来場者と触れ合う渚ちゃん

海上自衛官 渚ちゃん
広報：岡本２曹

全国ゆるキャラたち

新隊員ビデオレター撮影　広報

新隊員ビデオレター

五月下旬から六月上旬の間、今年度宮崎県から入隊した新隊員のもとを訪ね、様々な後輩たちへの熱いメッセージを伝えるためのビデオレター撮影を実施しました。

日に焼けた素肌が訓練の厳しさを物語っており、皆の弾けるような笑顔から、充実した日々を窺い知ることができました。ビデオレター撮影では、陸・海・空それぞれの特色で興を添え、入隊してからの感想や後輩に対するメッセージを贈ってくれました。「入隊前は体力面が不安だったが同期の支えで頑張れる。」「進路で悩んでいるなら自衛隊も選択肢にいれて欲しい。」等、この二ヶ月で様々な困難を乗り越えたであろう彼らは、非常に凛々しく立派に成長した姿でありました。中には「お父さん、お母さん、僕は元気に頑張っています。」と故郷にいる両親に向けた言葉もあり、はにかみながらも感謝を伝える姿には感動を覚えた。

航空自衛隊防府南基地での撮影

凛々しい制服姿に成る新隊員

海上自衛隊佐世保基地での撮影

防災講話

防災講話（日南市立飫肥中学校）　日南

六月十六日(日)、宮崎県日南市の市立飫肥中学校において自衛隊による防災教育の授業を行いました。

本授業は、学校保健委員会を開催するため、飫肥中学校から宮崎地本に「災害への備えの在り方」について講師派遣の依頼があったもので、十六日は授業参観の日もあり、飫肥中学校全校生徒百五十七名、職員十七名、保護者五十名の二百三十名が参加して、学校初の自衛隊による授業を行いました。

今回は、日南地域事務所長原口小百合一等海尉(以下「原口一尉」という。)を講師として、その他、日南・都城地域事務所及び本部のスタッフ六名で、①災害時の自衛隊の活動内容の紹介、②ロープワーク実習、③けが人救助法（担架づくり）の三項目について体験型学習を行い、災害に対する備えの重要性について約五十分間の授業を行いました。

授業では、原口一尉が、東日本大震災の災害派遣の経験を基に、ヘリコプターを操縦しながら見た津波被害の恐ろしさを紹介しながら、万が一南海トラフ地震が発生した際は「自分の身は、自分で守ることが重要」と強調し、「ロープワーク実習」では、"もやい結び"を、「けが人救助法（担架づくり）」では、着ている服や身近にある物で担架を作る方法や、実際に負傷者（役）を搬送する方法を全員に体験させ、災害発生時に役立つ知識の一端を楽しみながら学んでいました。

授業を行った原口一尉は、「自分の命を守れたら、次は他の人の救助に当たれるリーダーになってほしい。」と述べていました。

担架づくり（広報班：川越陸曹長）

ロープワーク実習（日南班：川越海曹長）

日南地域事務所長
原口小百合 一等海尉

体験搭乗

体験搭乗　新田原

六月一日（土）、航空自衛隊新田原基地において、陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第三飛行隊（高遊原）のCH47―JAの支援を受け、募集対象者・援護協力者六十名の体験搭乗を実施した。

まず、ヘリコプターをバックに全員で記念撮影をした後、約十八メートルもある長いロータがゆっくり回転し始めると、吹き飛ぶようなダウンウォッシュを浴びて、その迫力に皆一様に大きな歓声と驚きの表情を見せ、これから始まる空中散歩の旅に瞳を輝かせていた。いよいよ搭乗となり、そして離陸。搭乗者はスマホを使って、丸い窓から街の様子を様々なアングルで写真撮影するなど、機内では歓声と熱気に包まれていた。

体験飛行を終えた搭乗者は「ヘリなんて滅多に乗れないから凄く良い経験になった！」。また、ご両親から「自衛隊に入ってパイロットになってくれない？」と子どもにお願いするなど、微笑ましいシーンも見られた。

航空参考館で受付

防弾チョッキの試着

機内で撮影

CH-47を背景に記念撮影

体験搭乗　鹿屋

九月八日(日)、海上自衛隊鹿屋航空基地（鹿児島県鹿屋市）において第一航空群第一航空隊の支援を受け、募集対象者十八名に対し哨戒機の体験搭乗を実施しました。

大隅半島から錦江湾、薩摩半島と「西郷どん」の故郷をめぐるコースで、機内の窓からは、鹿児島県のシンボルである桜島の荘厳さ、深い青を湛える錦江湾や鹿児島の街並みを眺める空の旅に満喫した様子でした。一方、哨戒機の機内では、たくさんの器材を目前にして、潜水艦を探すための仕事の大変さや、長い時間の飛行になるという厳しさも理解したようでした。降りてきた学生たちは「海がすごく奇麗だった」「思っていたよりも機内が広くて驚いた」などの感想を話していました。航空学生を目指している学生は「勉強になった。入隊して立派なパイロットになりたい」と目標を再認識していた。

P-3C搭乗風景

遊覧飛行後の風景

哨戒機 P-3C

コンサート

第8音楽隊巡回演奏会　日向

九月二十三日(月)、日向市文化交流センターにおいて行われた第九回第八音楽隊巡回演奏会を支援しました。

第一部では、第八音楽隊の優雅な演奏により楽器のハーモニーを聴かせ、第二部では音楽隊員によるユーモラスな寸劇、そして日向高校吹奏楽部との合同演奏、地元日向市出身の歌手「おだや加奈子」さんとのコラボレーションなどバラエティに富んだ内容で、会場は全員、ノリノリになりヒューヒューが（日向）と大いに盛り上がりました。地本はこの機会をとらえ、ロビーにおいて広報ブースを設置し、制服試着や自衛隊の活動のパネル展示、募集CMの上映を行い、積極的に募集活動を展開しました。

来場してくれた中・高校生からは、「自衛隊の活動を知れて良かった」という感想や演奏後、「寸劇が面白かった」「将来自衛官になって音楽隊に入りたい」「来年も是非来て欲しい」など、音楽演奏会を機に、自衛隊に興味を持って頂けたようでありました。

おだや加奈子さんとのコラボ

日向高校吹奏楽部とのコラボ

制服を試着させる岡本２曹

陸上自衛隊　第8音楽隊

人事往来

【転出者】

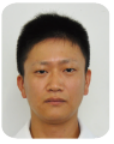
第四十二即応機動連隊へ
一等陸曹　平賀　真一

【転入者】

総務課　人事班
二等海曹　米花　進一
（海上自衛隊鹿屋航空基地）

令和元年六月一日付
日向地域事務所　広報官
陸曹長　尾前　文秋
（東部方面輸送隊）

延岡出張所　広報官
一等陸曹　柳田　和彦
（第二施設群）



募集課　各種係
二等海曹　小倉　龍悟
（海上自衛隊佐世保基地護衛艦ありあけ）

臨時勤務者の紹介

援護課　援護係
一等陸曹　領下　一広
（第四十三普通科連隊）

期間　令和元年八月一日付～令和元年十月一日

定年退官　お疲れさまでした。

宮崎募集案内所
准陸尉　青柳　幹也
令和元年五月二十三日付

援護課
准陸尉　杉原　博文
令和元年七月二十日付

延岡出張所
陸曹長　安田　敦
令和元年七月二十日付

日向地域事務所
准陸尉　小土手　博実
令和元年七月三十一日付

宮崎募集案内所
陸曹長　押川　修
令和元年七月三十一日付

延岡出張所
准陸尉　城戸　孝栄
令和元年九月二十一日付

がんばれ受験者たち！　がんばれ未来の後輩たち！

航空自衛隊　第５航空団　基地業務群施設隊
空士長　沖田　涼雅

私は、自衛隊宮崎地方協力本部新田原分駐所において、令和元年八月五日から九月三十日までの約二ヶ月間、臨時勤務しました。この二ヶ月間は毎日が充実しており、あっという間でした。

臨時勤務する前は、どのような事をするのかとても不安でしたが、分駐所の皆さんの暖かい気遣いやご指導のお蔭で、今まで経験したことのない募集広報業務を実施することができました。

私は、高校生や志願者が新田原分駐所に訪れた際や、学校説明会などで自衛隊の良さを説明する事が主な任務でした。

私は自分なりに勉強し、理解してから説明しましたが、自分が分かっていても相手に伝わらなかったり、どう説明すれば上手く伝わるか大変苦戦しました。また、二次試験会場での案内誘導等の任務を任された際、試験開始前の緊張感ある受験者達のこわばった顔が、とても大変印象深く残っています。そこで面接試験前に、とても緊張している受験者に、「リラックスして緊張しないように頑張れば大丈夫だよ。」と緊張をほぐすために声を掛けてあげたりもした。

受験者達の合格発表まで見届けられない事は、少し残念ですが、皆さんが同じ自衛官として、また自分の良き後輩として、一緒に勤務できることを願い「がんばれ受験者たち！がんばれ未来の後輩たち！」と心の中で応援したいと思います。そして皆さんが晴れて無事に合格し、入隊されたときは、心から歓迎したいと思います。その日が来るのを楽しみに、今後の業務に励みたいと思います。

最後に地方協力本部で勤務する機会を与えていただき心から感謝しています。貴重な経験をすることが出来ました。

今後も宮崎地方協力本部新田原分駐所所長をはじめ、広報官の皆さん、お体に気をつけて、募集活動に頑張ってください。有難うございました。

高校生に職業説明をする沖田士長

新田原分駐所内で撮影（写真右下：沖田士長）

地本業務の大切さを認識

地本での臨時勤務を終えて
海上自衛隊　海士長　戸谷　綺香

私は、護衛艦「あさひ」に所属している海上自衛官です。今回、出身校の鵬翔高校がある宮崎募集案内所に六月十日から七月十九日までの約四十日間、臨時勤務しました。その間、市内の学校説明会、街頭広報、自衛隊家族会の総会等に参加することができました。

入隊してから艦艇勤務しか知らない私は、一般の方が意外と自衛隊について知らないこと、広報員の方が入隊希望者との橋渡しをしていること、それにより募集業務の大切さを初めて認識することができました。また、宮崎募集案内所広報員の皆様には、とても丁寧にかつ詳しく陸上・航空自衛隊について沢山の事を教えていただき、同じ自衛隊でもこんなに違うものなんだと驚きました。私自身、自衛隊に関する知識も増え、視野が広くなり、入隊を希望する学生さん達にそのことを踏まえ、自衛隊で働く魅力とやり甲斐など沢山伝えることができたと思います。部隊に帰ってからもこの経験を生かして、自衛隊の広報活動にも協力していこうと思います。臨時勤務、とても楽しかったです。大変お世話になりました。

故郷で募集・広報活動

～地本での臨時勤務を終えて～
陸上自衛隊　第一〇三施直支大　陸士長　川井　丈一郎

私は、宮崎地本に臨時勤務を命ぜられ七月一日から八月六日までの約一ヶ月間、都城地域事務所で勤務しました。

学校説明会や祭りイベント等の業務に参加して募集や広報活動の意味、その重要性について、多くの事を学ぶ事ができました。

日頃、地域の方々とふれあうことの少ない私にとって、地域の家族会や募集相談員の交流は、とても暖かく、自衛隊を信頼してくれていることが分かり、やりがいも感じる事ができました。都城市は、私の生まれ故郷であり、学生時代を過ごした大変思い入れのある場所です。特に、出身校である都城西高等学校の説明会に参加した際は、母校の風景や校内の空気に懐かしさを感じながら、自分の後輩達にしっかり自衛隊の良さをＰＲしなければと気合が入りました。今回、説明会に来てくれた生徒さん達の姿を見ていると、数年前、自衛隊入隊に不安を感じていた自分自身の姿を想い出し、出来る限りその不安を解消させたい！と思い入隊後の生活や教育訓練等の内容を丁寧に説明しました。その後、生徒さん達から多くの質問を受け、「自衛隊に少しでも興味を持ってくれたんだ。」と感じ、嬉しい気持ちになりました。地元を離れて四年が経過しましたが、都城の素敵な風景と、温かい街で勤務できたことに感謝するとともに、本勤務での経験を生かして、地元に恥じる事がないよう日々精進していきたいと思います。臨時勤務の間、大変お世話になりました。